

1. 件 名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との審査等の進め方に関する面談

2. 日 時：令和3年7月6日（火）9：00～10：00

3. 場 所：原子力規制庁10階南会議室（テレビ会議）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 研究炉等審査部門

志間安全規制管理官（研究炉等審査担当）、来住補佐、木村補佐、小多係長

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括部 奥田部長 他1名

大洗研究所 環境技術開発センター 石川センター長 他1名

5. 要 旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）から、令和3年7月から9月に予定している許認可案件の優先度及びスケジュールについて、以下のとおり説明があった。

- ・もんじゅ、ふげん、東海再処理施設の廃止措置を進めることを最優先とし、放射性廃棄物処理場、廃棄物管理施設、常陽、STACY、の順に優先度をつけている。
- ・廃棄物管理施設における対応体制について、審査書作成のためのワーキンググループの立ち上げ、機構内関係者による定期的な連絡会の実施により、対応体制の強化を図るとともに、前回の面談における指摘事項を踏まえ、行政相談を活用し、前広に相談しつつ、行程管理を行う。また、安全・核セキュリティ統括部も、マネジメントに積極的に関与していく。

これらに対し、規制庁からは主に以下の点を指摘した。

- ・今回提示された審査案件のリストや内容については、規制庁の審査担当としっかり認識共有を図ること。
- ・審査を進める中で、機構内の各拠点や各施設で対応に違いが見受けられるため、対応の差異が生じないように、機構全体でマネジメントを強化すること。

これらに対し、機構からは了解した旨回答があった。

6. 配付資料

資料1-1 機構全体における許認可の優先度の見直しについて

資料1-2 原子力規制庁研究炉等審査部門等における JAEA 許認可審査上位案件

以上